

## 読書感想文発表会

11月28日から30日の3日間、低、中、高学年に分かれ、給食の時間に、読書感想文発表会が行われました。例年は、児童集会の時に、低学年（1・2・3年生）、高学年（4・5・6年生）と2回に分けて行われていた読書感想文発表会ですが、本年度は、ビデオを使って実施することになりました。

ビデオ撮りは、11月15日から17日までの3日間をかけて行われました。ビデオカメラの前で、読書感想文を読む子どもたちは、どの学年の子も大変緊張していましたが、何度も練習していたので、大きな声でしっかり読むことができました。読書感想文発表会の当日、ビデオテレビから流れる読書感想文を読む子どもたちの自信に満ちた姿が印象的でした。



今回、15名の代表の子どもたちが読んだ本は、くるまのいろは、そらのいろ（1年1組） かぐやひめ（1年2組） にじいろのさかな（1年3組） あかちゃんてね（2年1組） ふたごの星（2年2組） ビロ - ドウさぎのなみだ（2年3組） 村いちばんのパンやさん（3年1組） ま女の友だちになりませんか（3年2組） 戦場の草ぼっち（4年1組） ロボママ（4年2組） マチルダは小さな大天才（5年1組） サポ - タ - はサイボ - グ（5年2組） ひげきの少女アンネ（5年3組） うそつき大ちゃん（6年1組） わたしの仕事（6年2組）です。

どの学年学級の子もたちもしっかり読書感想文を書いていました。その中から、1年生と6年生の読書感想文を紹介します。

### ＝ 1年生の読書感想文 ＝

ぼくは、「にじいろのさかな」というほんが、だいすきです。ぎんいろのうろこをもっているうみのなかで、いちばんきれいなさかながいました。でも、そのさかなは、ぎんいろのうろこをおともだちにじまんだり、ひとりじめしたりしていました。だから、みんなにしらんかおされたり、あそんでもらえなくなったりしました。ぼくもこんな



なるのがいやなので、おともだちにいじわるをしたり、しらんかおをしたり、ひとりじめしたりしたらあかんとおもいました。このきれいなさかなは、きれいなぎんいろのうろこをおともだちにわけてあげたり、さめがきたときにおともだちをたすけてあげたりしました。とてもやさしいさかなになりました。だから、ともだちがいっぱいふえたからよかったとお

もいました。ぼくもやさしいきもちをいつもわすれず、たくさんのともだちとなかよくしていきたいとおもいました。

## ＝ 6年生の読書感想文 ＝

引っこしてきた時、食習慣のちがいが原因で、「うそつき大ちゃん」というあだ名をつけられてしまった大ちゃんと、親友の健ちゃんが、つりをしたり、川に入って魚をあみでとったりするおもしろい話です。

まずは、ワクワクした場面を紹介します。それは、健ちゃんが鳥に飛びつく場面です。最初は、鳥を遠くから観察する程度だったのに、飛びつけば手のとどく場所にきてしまったのです。決心して、飛びつきました。すると、鳥に手がふれました。健ちゃんたちは喜びました。サギという大きな鳥に飛びつくなんて勇気があるなと思いました。

次に、すごいと思う場面の紹介です。それは、本のページの中で、時々大ちゃんが、とても簡単に人に接したり、きたないどろに手をつっこんだりすることができるところです。例として、鳥にも食べられず、虫にも食べられないで落ちてしまう夏ミカンを取ろうとした時に、その家の人に見つかってしまいました。すると、初めてあった人なのに、大ちゃんは、すでに知っている人と言うように、「国江町の新見大介です。このミカン一個もらっていいですか？」と言いました。すると、そのおばあさんは、「ええよ、そんなミカンでよかったらいくらでも持っていきな。」と言いました。大ちゃんは、「ありがとうございます。」と言ってふつうに話をしました。なににでも立ち向かう勇気があるなと思いました。また、見習わないとも思いました。

最後に一番心に残ったことを紹介します。自分の経験していないことや知らないことに対して、「うそつき」ときめつけることは、とても自分勝手だと思うし、相手のことを全く理解できないと思いました。ぼくも、こういうことをしたことがあるので、相手の話を素直に聞く広い心を持った人になりたいです。

